

単元指導計画 「たのしいあき いっぱい」

配当時間 15時間 活動時期 10～11月

小単元の目標	時数	学習活動の流れ	指導・支援	小単元の評価基準
校庭や公園で、秋を探そう ○校庭や公園に出かけ、日常生活の経験を想起しながら、秋の自然の特徴を、色や形、におい、手触りから感じ取ることができるようとする。	4	○校庭や公園で、草花や樹木、虫などを見つけたり観察したりする。 ○夏の頃の様子と違うところを見つけ、観察カードにまとめる。	○夏の頃の様子と比較すると、違いに気づきやすくなることを助言する。 ○言葉だけでなく、簡単な絵や写真を使って、自分なりに観察カードにまとめればいいということを伝える。	知 色や形、におい、手触りなど秋と夏の違いについて気付く。 思 日常生活の体験を思い起こしながら、秋の自然の特徴を感じている。
葉っぱや実で遊ぼう ○秋の自然の中から見つけたものの特徴や良さを生かしながら遊ぶ経験を通して、葉や実などの特徴に気づくことができるようとする。	3	○葉や木の実などの自然物を生かした遊びを考えたり、簡単なおもちゃを作ったりすることができる	○「どんなあそびがしたい?」「どんなあそびができるかな?」など、児童の意欲が高まる声掛けを工夫する。 ○お互いに、友達の活動の様子を見たり、一緒に遊んだりする中で、楽しむ。	知 葉や実など、秋の自然物の特徴に気づく。 思 秋の自然の良さに気づき、特徴を生かしながら、遊びに使うものを選んだり遊んだりすることができる。 態 秋の遊びを楽しもうとしている。
秋のことを伝えよう ○秋の自然と関わった経験をふり返り、楽しかったことや気づいたことを伝え合うことができるようとする。	1	○活動したことについて、これまでの観察カードや写真などを見ながら振り返り、友達に伝え合う。	○これまでやった中で、「こんなことが楽しかったよ。」「こんなことに気づいたよ。」ということはないか、児童の体験を想起させる様な声掛けを行う。	思 活動を振り返りながら、自分なりの秋のおすすめを選び、伝えようとしている。 態 季節を生かして遊ぶことの楽しさを知り、楽しむことができている。
秋のおもちゃを作ろう ○秋の自然物を使っておもちゃを作る活動を通して、自分なりに工夫して作る楽しさを感じることができるようとする。	7	○秋の自然物を使ったおもちゃ作りについて話し合い、材料を集めめる。 ○自分なりに工夫しておもちゃ作りを行う。 ○作ったおもちゃを使って遊ぶ。	○同じようなおもちゃを作る友達とグループを作って、お互いに参考にしながら活動を進めるよう助言する。 ○「作る→遊ぶ→ふり返る」の流れを繰り返しながら、おもちゃや遊びを工夫していくよう、助言する。 ○活動時間を十分確保する。	知 自分なりに工夫しながら、おもちゃを作ることができる。 思 材料を比べたり試したりしながら、おもちゃを作っている。 態 自分で作り出す楽しさを実感し、友達と仲良く遊ぶ特がでている。